

科 目	英 語
出題意図 全体	高等学校までで学習する英語の語彙、文法、談話構成に関する知識を運用して、テキストを理解する能力を測定することを目的としています。主要なメッセージ、正確な情報を理解する能力、語彙・文法知識を運用する能力、理解したことをもとに類推する能力を問う構成となっています。
出題意図 1	1,000語前後で10段落程度からなる完結した英語の文章を読む問題です。問1は、各段落の主題や重要な情報を理解できたかを問う問題です。問2は、文章で示されたさまざまな見方や情報のまとめを表で示し、メッセージの流れや論理構成を含めて、その理解を問う問題です。問3は、文章中の細部にわたる情報の理解を問う問題です。全体を通して、①主要情報の理解、②細部の理解、③論理構成の理解に関する読解力を問う構成となっています。
出題意図 2	定評のある語彙使用頻度リストを参考にして、使用頻度の高い語彙の中から、基本的な語からやや難易度の高い語まで段階的に抽出して問題を作成しています。基本的な語彙知識を問うことがねらいです。与えられたダイアログの中でふさわしい単語を選ぶという形式にしています。コミュニケーションの中で単語の知識を活かすことができるかを問います。どの単語もふさわしい文脈の中で選ばれ使われるからです。
出題意図 3	英語における基本的な文法知識を問う問題です。会話の形式で空所が示され、会話の状況からふさわしい表現を選びます。この問題では、高等学校までに学習する文法の運用知識を問うことをねらいとしています。
出題意図 4	話し言葉のコミュニケーション能力を測る問題です。会話の展開を示す表現に着目しながら、会話の状況や話者の意図を理解し、一貫した内容を把握する論理的思考能力を問います。
出題意図 5	空所補充を通じて短いエッセイを完成させる問題です。英文をパラグラフの観点から理解できるかを問うとともに、受験者の論理的な読解力、文脈把握力、英文構成力を総合的に測定します。具体的には冒頭文と結論文を手がかりに、その焦点を正しく捉え、文同士の関係を理解し、適切な論理展開を選択する力が必要になります。

科 目	英 語
出題意図 6	さまざまなジャンルの短めの文章について，特定の情報を読み取る，読み取った内容に基づいて情報を整理する能力を問う問題です。文章の内容について，限られた時間であっても正確に理解する読解力を問います。

科 目	世界史
出題意図 全体	高校教科書の内容を確実にマスターし、世界各地域の大きな歴史の流れを理解しているか否かを問うものです。
出題意図 1	フランク王国が西ヨーロッパ世界の中心的役割を果たすようになった歴史的プロセスを、政治・文化・宗教の観点から扱った設問です。フランク王国とローマ＝カトリック教会の関係を軸にしながらも、当時のイスラーム王朝との関わりや中世文化の内実といった重要な事柄についても問うています。
出題意図 2	地理的な領域としてのサブサハラ地域・スーダンを範囲とし、西スーダン・東スーダンそれぞれの歴史や文化、宗教について幅広い時代から出題しています。記述式・選択式を織り交ぜて、西欧列強との関係や当時の世界情勢との関連を問うことで、世界史の中に位置付けた理解を問うています。
出題意図 3	2022年2月にロシアがウクライナに侵攻しました。ロシアは領土拡張傾向が伝統的に強い国家ですが、南下政策はその最たるものです。本問では、ロシアの南下政策に晒されたオスマン帝国の抵抗、その舞台となったバルカン半島における混沌とした外交の状況への理解度を測りました。
出題意図 4	ムッソリーニのイタリアとヒトラーのドイツ双方を軸に、戦間期のファシズムの政治運動を主題としました。独伊両国についてはもちろん、1930年代の欧米諸国へのファシズムの影響についての知識も問うています。

科 目	地 理
出題意図 1	出題者の退職・転出等の理由により公表不可
出題意図 2	交通分野を中心に、近年見られる産業や東海地方の地理等を問う複合的な設問です。用語や地名、河川名を単に覚えるだけでは満点は取れない問題となっており、代表河川とその近辺の都市との位置関係などもしっかりと把握しておく必要があります。
出題意図 3	都市問題、都市機能に関する問題です。用語を回答するだけではなく、昼夜間人口比率等のデータから適切な都道府県名や市区町村を選択する問題もありました。特徴的な昼夜間人口比率を持つ地域を把握しておくだけではなく、なぜ特徴的な動きを見せているのかを考えておくことも非常に重要です。
出題意図 4	出題者の退職・転出等の理由により公表不可

科 目	政治・経済
出題意図 1	出題者の退出・転出等の理由により公表不可
出題意図 2	開発援助・国際協力が主題です。政府開発援助（ODA）や持続可能な開発目標（SDGs）の基礎的な知識、ならびに、それらに関わる国際機関の位置づけや日本の立場が問われました。教科書からは現代の国際政治と国際経済の2分野を横断した出題ということになりますが、いずれの分野もまんべんなく学んでおけば解答でき、同時代の政治・経済課題がどのように関連しあっているかを理解できていれば、より容易に正答を導くことができたでしょう。最後の問8(c)は時事問題ですが、『2023 新政治・経済資料（三訂版）』（実教出版）などの資料集でも紹介されている重要な出来事で、政治・経済の最新情勢に関心をもって学習しているかが問われました。
出題意図 3	出題者の退出・転出等の理由により公表不可

科 目	理科（物理基礎・物理）
出題意図 1	物体の鉛直投げ上げやばねのフックの法則、さらには物体の運動方程式など力学の基礎的事項を物理基礎の範囲で問うている問題である。
出題意図 2	この問題は、スイッチ、電池、抵抗、コイルで構成された回路を扱い、スイッチ開閉による回路内の電流と電圧の変化を求めさせることで、コイルを含む回路の過渡現象を理解しているのかを受験生に問うものである。

科 目	理科（化学基礎・化学）
出題意図 全体	化学の出題は、受験生が化学基礎と化学の教科書レベルの基本的な内容を理解し、化学的な考え方の基本を身につけているかを調べることに主眼がおかれています。問題は2問からなっており、3は化学基礎、4は化学からの出題です。教科書の例題や章末問題レベルの問題で構成されているので、教科書の基礎的な理解ができていれば容易に解けるはずです。
出題意図 3 1(1)	分子と共有結合について理解し、単結合からなるものを正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 1(2)	粒子の結合を理解し、イオン結晶でないものを正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 1(3)	粒子の結合を理解し、分子結晶のものを正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 1(4)	酸と塩基の水溶液のpHを理解し、pHが最も大きいものを正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 2(1)(2)(3)	電子配置とイオン化エネルギーを理解し、与えられた情報から正しい元素記号を導出できるかを問う。
出題意図 3 3(1)	物質質量と気体の体積について理解し、混合気体の基本的な計算力を問う。

出題意図 3 3(2)	物質質量と気体の体積について理解し、溶液の濃度の基本的な計算力を問う。
出題意図 3 3(3)	原子の構造とイオンについて理解し、イオンの陽子、中性子、電子の数を正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 3(4)	溶液の濃度を理解し、溶液の濃度の計算式を正しく導出できるかを問う。
出題意図 3 4(1)(2)(3)(4)	分子と共有結合を理解し、正しく電子式で記述できるかを問う。
出題意図 4 1(1)(2)(3)(4)(5)	無機物質の分野からの出題で、気体の性質、金属イオンの沈殿反応、銀の化合物の色の基礎的な理解力を問う。
出題意図 4 1(6)	芳香族化合物の分野からの出題で、ベンゼンやフェノールや反応を理解し、付加反応を正しく導出できるかを問う。
出題意図 4 1(7)	芳香族化合物の分野からの出題で、有機化合物の反応を理解し、化学反応の量的関係の基本的な計算力を問う。

出題意図 4 2(1)(2)(3)(4)(5)	化学平衡の分野からの出題で、平衡定数と物質質量、気体の状態方程式、分圧や全圧を理解し、平衡状態における物質質量、分圧、全圧などの基本的な計算力を問う。
出題意図 4 3(1)(2)(3)	有機化合物の分野からの出題で、有機化合物の異性体を理解し、与えられた分子式から異性体の数を正しく導出できるかを問う。

科 目	理科（生物基礎・生物）
出題意図 (生物基礎) 全体	生物がエネルギーを産生する機構について理解しているかを問いました。特に植物については光の強さとエネルギー産生の関係と生物学的意義を理解しているかも問いました。
出題意図 (生物基礎) 5 1	設問省略
出題意図 (生物基礎) 5 2	細胞内共生説を理解しているかを問うために、ミトコンドリアの特徴と他に共生した細胞小器官である葉緑体を問いました。受験生の多くが正答していました。
出題意図 (生物基礎) 5 3	産生されたエネルギーが貯蔵されている分子であるATPについて、その構造と反応を理解しているかを問いました。ATPの構造についてはほとんどの受験生が正答していました。また、ATPの反応産物についても、多くの受験生が正答していました。
出題意図 (生物基礎) 5 4	光の強さと光合成の関係を理解しているかを問うために、光補償点の定義を問いました。
出題意図 (生物基礎) 5 5	光合成の反応を理解しているかを問うために、光合成で産生されるものを問いました。植物の性質を知っているかを問うような問題文ですが、光合成の反応を考えると解ける問題であるため、多くの受験生が正答していました。
出題意図 (生物基礎) 5 6	光飽和点を理解しているかを問うため、グラフを読み取る問題を出題しました。多くの受験生が正答していました。

出題意図 (生物基礎) 5 7	測定されているものが何かを理解し、グラフを読み取れるかを問いました。グラフの縦軸は二酸化炭素の吸収速度であり、呼吸による放出速度も含まれている一方で、解答の際は正味の二酸化炭素吸収速度を比較する必要があるため、多くの受験生が苦戦したようでした。
出題意図 (生物基礎) 5 8	陰生植物の性質と生育上の利点を理解しているかを問いました。陰生植物と陽生植物を見分ける問題については多くの受験生が正答している一方で、その生存上の利点についての正答率は低くなっていました。
全体の出題意図 (生物)	大問6では、酵素反応と遺伝子発現についての基本的な知識を身につけているかを問うことに主眼がおかれています。また、語句の暗記だけでなく、文章から実験内容を読み取ったり、設定された数値を適切に処理したり、といった能力を持ち合わせているかも問うています。
出題意図 (生物) 6 1	酵素反応における語句を正しく暗記しているかを問うています。多くの受験生が正答していました。
出題意図 (生物) 6 2	酵素反応において、非競合的阻害剤を加えた際のグラフの変化を問うています。競争的阻害剤を加えた際の変化との違いを理解していれば、正答にたどり着くはずでした。この設問も高い正答率でした。
出題意図 (生物) 6 3	ブタの肝臓片を用いた酵素の性質を調べる実験についての設問です。実験の設定となる文章を理解する必要があり、読解力が試される設問でした。また、(2)では実験結果の解釈を説明する作文を求めました。加熱による酵素(タンパク質)の変性とそれに伴う酵素の失活が理由として説明されていれば、満点として評価しました。
出題意図 (生物) 6 4	ここまでは酵素に関する問でしたが、この問4では、遺伝子発現に関して出題しました。DNAからmRNA前駆体へと転写され、スプライシングを経たのちにmRNAとなり、タンパク質へと翻訳されるプロセスを理解しているかどうかを問いました。また(4)では、コドン表を元に、遺伝子変異が入った際での終止コドンの登場を予測する能力を問いました。与えられた文字列や数値を正しく処理できれば正答にたどり着けたと思いますが、ここは低い正答率でした。

科 目	国 語
出題意図 一	：受験生にとっては身近な「暗記」をめぐる問題についての文章から、著者の論理展開を正確に読み取り、理解する力を問う設問です。ネットで検索すれば様々な情報が手に入る時代に、暗記をすることの意味について、これから大学で本格的な学問に触れるにあたって、改めて考えてもらいたいとの意図でこの文章を選びました。文章は平易ですが、後半の著者独自の主張を理解するためには、提示されている例を丁寧に読み解き、理解する必要があります。
出題意図 二	出題者の退出・転出等の理由により公表不可